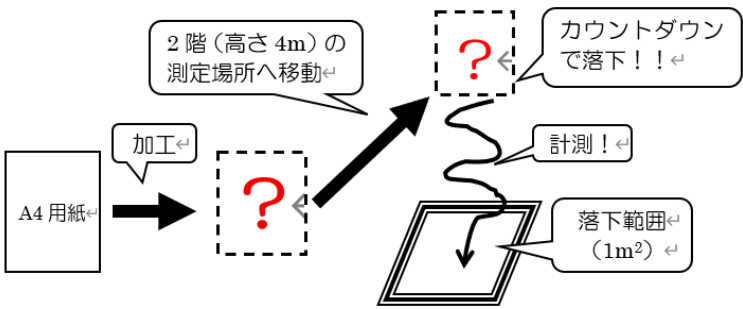


令和8年度 長岡高校スーパーサイエンスハイスクール

名 称	第14回 新潟県SSH生徒研究発表会 in Echigo-NAGAOKA
期 日	令和8年7月28日（火）
会 場	アオーレ長岡
対 象	県内外のSSH校、県内高校、及び中学校生徒
参加者	【参加生徒】新潟南高校、新発田高校、長岡高校、柏崎高校、高田高校（県内SSH事業実施5校）、富山県立富山中部高校（SSH事業実施校）、三条高校（WWL事業実施校）、市立万代高校、三条市立第三中学校、新潟大学附属長岡中学校、長岡市立東中学校。 以上、11校868名。 【来賓】本校SSH運営指導委員6名にご臨席いただいた。 【その他参観者】参加校教員34名、一般・保護者による参観39名
目 的	県内外のSSH指定校をはじめとした各高等学校、さらに、近隣の中学校の生徒が一堂に会して、課題研究の発表や質疑応答による「研究発表交流」、及び参加生徒が協力して実技課題に取り組む「生徒交流会」を行い、SSH校の課題研究の改善につなげるとともに、参加各校生徒の相互交流により、協働的な課題解決力を育成する。また、会場の設営や進行を長岡高校の生徒が行うことにより、本校生徒の主体性および協働性を育成する。
内 容	■研究発表交流 「口頭発表」・・・5校5件 新潟南高校（日本語）、新発田高校（日本語）、柏崎高校（英語）、高田高校（日本語）、長岡高校（日本語）の各代表グループによるステージ発表を行った。 「ポスターセッション」・・・8校127枚 参加した各校の研究グループが、ポスター発表の形式で課題研究の成果を発表した。ポスター発表校とポスター数は新潟南高校 11 枚、新発田高校 24 枚、柏崎高校8枚、高田高校 24 枚、三条高校9枚、万代高校 2 枚、長岡高校 48 枚、富山中部高校 1 枚。このうち英語発表ポスターは 16 枚であった。 ■生徒交流会 参加生徒全員を他校生徒と混合した5～6人のグループに分け、当日提示する実技課題に取り組ませる。与えられた条件下で、初めて出会うメンバーとの話し合い、意見交換、試行錯誤などの協働作業により、よりよい解を探るという協働的な課題解決を経験する場として設けている。また、課題解決力やコミュニケーション能力の向上を図ることも目的の一つである。今年度のテーマは「ペーパードロップⅡ」と題し、「狙った位置に正確に、ゆっくり落とす」ことを目的とした。これは、災害現場などにおいて、救援物資を上空から投下して届ける場面を想定したテーマである。実際には、A4用紙を切り取ることなく加工し、約4メートルの高さから落として、滞空時間を競った。紙の落ち方だけでなく、狙った位置に落とすことを探究する取り組みである。 

	
口頭発表 1	口頭発表 2
	
ポスターセッション	生徒交流会
参加者の感想	＜口頭発表について＞ ・研究背景、目的、先行研究などが明らかで実験の方法、結果の分析も分かりやすくよかった。質問が沢山出ているのもよかった。 ・各校創意工夫に満ちた素晴らしい発表だった。質問も、研究に使用した物質、被験者の選定の仕方などの的確に指摘したものが多く、発表内容の深化につながっていた。 ・地域に根付いた研究や、実用的な研究ばかりでとてもおもしろかった。 ・英語発表の班が日本語版の要旨も掲載してくれていたのも、英語で理解しかなるところを日本語版で理解することができた。 ＜ポスターセッションについて＞ ・発表に対して、専門の先生が声をかけて研究の進め方等のアドバイスをしているのが良かった。 ・質問に対して例を出して分かりやすく説明したり、難しい言葉を使わずに説明できたりするのがすごい。 ・ポスターはどれも興味を惹かれるもので、実演も交えながら分かりやすく説明する班もあった。 ・他校の研究から、自分たちの研究に類似したものを見つけ、自分たちの研究と比較、分析してお互いに深め合うことができた。 ・発表時には、英語での質問に答えることができうれしかった。 ＜生徒交流会について＞ ・他校の生徒と協力し、試行錯誤しながら活発に活動することができてよかった。 ・知らない人とも仲良くなることができた。

